

スタッフ紹介

※ 氏名、現職、専門分野、担当プロジェクト、および2015年度の研究業績について紹介します。今年度新任のスタッフには、研究紹介および2014年度以前の研究業績についても掲載します。

井上順孝 所長・教授 宗教学、宗教社会学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[単行本]

- ・『〈オウム真理教〉を検証する—そのウチとソトの境界線—』（編著）春秋社、2015年8月。
- ・『第12回学生宗教意識調査報告』（編集責任）國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所、2015年12月。
- ・ *Encyclopedia of Shinto: Chronological Supplement*, (ed), IJCC, 2016年1月。
- ・ *Workbook for Learning Religious Culture in Japan and World*, (ed), Kokugakuin University, 2016年2月。
- ・『世界の宗教は人間に何を禁じてきたか』河出書房新社（KAWADE 夢文庫）、2016年4月。
- ・『宗教社会学を学ぶ人のために』（編著）世界思想社、2016年4月。

[論文]

- ・「国際的視点からみた宗教文化教育」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』8、33-45頁、2015年9月。
- ・「現代宗教の侵襲的研究と宗教調査リテラシー」『國學院雑誌』116-11(1303)、1-16頁、2015年11月。
- ・「現代宗教は古代宗教と何が違うか？—宗教進化論再考—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』8、174-206頁、2016年3月。

[口頭発表]

- ・「コメント」(テーマセッション「ポストオウム研究の課題と展望—地下鉄サリン事件20年の地点から—」)、「宗教と社会」学会2015年度第23回学術大会、於東京大学、2015年6月。
- ・「Religious Culture Education Seen From Global Perspectives」(パネル Religion and Education in the Age of Globalization: The Attempt of Education in Religious Culture in Japan)、IAHR第21回国際学術大会、於ドイツ・エアフルト大学、2015年8月。
- ・「宗教のグローバル化現象に対するニッチ概念の適用」、日本宗教学会第74回学術大会、於創価大学、2015年9月。
- ・「コメント」(國學院大學日本文化研究所設立60周年記念国際研究フォーラム「[日本文化]研究の展望」)、於國學院大學、2015年10月。
- ・(講演)「現代社会と教派神道」、教派神道連合会主催、於國學院大學、2015年6月。
- ・(ミュージアムトーク)「教派神道の創始者は教祖か?」、於國學院大學博物館、2015年6月。
- ・(講演)「現代宗教は古代宗教と何が違うか?」(國學院大學研究開発推進機構公開学術講演会)、於國學院大學、2015年10月。
- ・(招待講演)「宗教文化教育とカルト問題」、宗教学会第71回大会、於創価大学、2015年11月。
- ・(講座)「世界の宗教文化から多様な考え方を学ぶ」、於清泉女子大学ラファエラ・アカデミア、2015年5~6月。
- ・(講座)「『見える神道』と『見えない神道』」、於朝日カルチャーセンター横浜、2015年11~12月。
- ・(講義)「宗教社会学」、於警察大学校、2015年6月・10月、2016年1月。
- ・(講演)「宗教観—日本人にとっての宗教、現代における宗教—」、於日本生産性本部、2015年11月。

[その他]

- ・(テレビ出演)「過激派“イスラム国” 米を敵視の根本と宗教」、BSフジ LIVE PRIME NEWS、2015

年4月。

- ・「日蓮」(「シネマ特別席」)、『中外日報』、2015年4月。
- ・「フラム・イーブル」(「シネマ特別席」)、『中外日報』、2015年5月。
- ・「石井のおとうさんありがとう」(「シネマ特別席」)、『中外日報』、2015年8月。
- ・「おかげは和賀心にあり」(「シネマ特別席」)、『中外日報』、2015年9月。
- ・「世界の果ての通学路」(「シネマ特別席」)、『中外日報』、2015年10月。
- ・「扉は開かれた」(「シネマ特別席」)、『中外日報』、2015年11月。
- ・「ダ・ヴィンチ・コード」(「シネマ特別席」)、『中外日報』、2016年1月。
- ・「レフトビハインド」(「シネマ特別席」)、『中外日報』、2016年2月。
- ・「パッション」(「シネマ特別席」)、『中外日報』、2016年3月。

藤澤紫 教授 日本美術史、日本近世史、比較芸術学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【研究紹介】

専門は日本美術史、日本近世文化史、比較芸術学。特に、浮世絵や琳派など日本近世における絵画史、風俗史研究を軸に、景観表現、四季の祭礼、衣食住、芸能をはじめ、描かれた日本の諸文化に関わる考察を行っている。版本や錦絵など、日本近世の出版文化研究を通じて、個々の作品が有するメディアとしての機能にも着目している。ボストン美術館所蔵のスポルディング・コレクション(浮世絵約6,000点)のデジタル化およびウェブ上での一般公開に関わる業務などを介し、美術と国際交流の観点からも研究を進めてきた。近年は、「美人図」や「異界表現」をキーワードに、造形文化における虚と実の問題にも関わっている。

【論文】

- ・「名所絵の機能と広がり―「名所江戸百景」に見る名所絵の「記録」と「記憶」―」『國學院大學大学院紀要 文学研究科』46、1-40頁、2015年4月。
- ・「近代文学のなかの浮世絵―泉鏡花と歌川派の絵師を中心に―」『東洋通信』2016年度2月号、15-25頁、東洋大学、2016年2月。

【口頭発表】

- ・(講演)「ジャパニーズ・ビューティー―「美人図」にみる日本の美意識―」、桜友会文学部同窓会、於学習院創立百周年記念会館、2015年6月。
- ・(講演)「こんなに面白い江戸の幽霊図」、東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム連携事業「夕涼み浮世絵講座」、於國學院大學常磐松ホール、2015年8月。
- ・(講演)「琳派とやまと絵―雅と粋のデザイン文化―」、東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム連携事業 美術文化フォーラム1「琳派400年記念 琳派―受け継がれる美の系譜―」、於國學院大學常磐松ホール、2015年9月。
- ・(講演)「鯰絵と江戸の大地震―鯰絵とよみがえる光景―」、江戸歴史講座第34回(錦絵誕生250年記念)、於千代田区立日比田図書館文化館、2015年9月。
- ・(講演)「錦絵誕生250年記念 鏡花と錦絵―描かれた美と奇―」、泉鏡花記念館特別展フォーラム「怪異の泉―鏡花 幻影の本棚―」、於金沢21世紀美術館、2015年10月。
- ・(基調講演)「錦絵の誕生と鈴木春信―美人図の百花繚乱―」、国際浮世絵学会第20回秋季大会、於國學院大學、2015年11月。

【その他】

- ・(テレビ出演)「アート・ステージ～画家たちの美の饗宴～浮世絵 SPECIAL 葛飾北斎 驚異の世界～浮世絵師最大の巨匠 北斎の名画誕生の秘密～」、TOKYO MX、2015年5月。
- ・(テレビ出演)「円楽の大江戸なんでも番付 2時間スペシャル よっ、世界遺産だ! 謎だらけの富士山」、BS朝日、2015年10月。

- ・(テレビ出演)「円楽の大江戸なんでも番付 おっ、見返り美人だ!べっぴん列伝」、BS朝日、2015年11月。
- ・(テレビ出演)「美の壺 file331 手のひらの美術館 ぼち袋」、NHK BSプレミアム、2016年1月。
- ・(ラジオ出演)「風天 浮世の歩き方」、奈良どっとFM、2016年2月。

[2014年度までの主な研究業績]

- ・『浮世絵の至宝 ポストン美術館秘蔵 スポルディング・コレクション名作選』(共著)小学館、2009年11月。
- ・『遊べる浮世絵—体験版江戸文化入門—』東京書籍、2008年9月。
- ・『鈴木春信絵本全集(改訂新版)』(編著)勉誠出版、2001年7月。

ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman) 教授 日本宗教史、日本の民間信仰
担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

黒崎浩行 教授 情報化と宗教、現代社会と神社神道

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「地域再生のため宗教に何ができるか—ソーシャル・キャピタルの視点から—」小熊英二・赤坂憲雄編著『ゴーストタウンから死者は出ない—東北復興の経路依存—』人文書院、237-256頁、2015年7月。
- ・「東日本大震災におけるコミュニティ復興と神社—宮城県気仙沼市の事例から—」『國學院雑誌』116-11(1303)、17-29頁、2015年11月。

[口頭発表]

- ・「コミュニティ復興の課題と神社—宮城県気仙沼市の事例から—」、日本宗教学会第74回学術大会、於創価大学、2015年9月。

平藤喜久子 准教授 神話学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「近代植民地主義と『古事記』研究の闇」『古代史研究の最前線 古事記』洋泉社、220-235頁、2015年5月。
- ・「神と出会う・神を描く—ポップカルチャーにみる伝統と現代—」『國學院大學雑誌』116-11(1303)、142-154頁、2015年11月。
- ・「海外における日本神話研究—ファシズム期の視点から—」國學院大學研究開発推進センター編・阪本是丸責任編集『昭和前期の神道と社会』弘文堂、511-529頁、2016年2月。
- ・「宗像三女神と住吉三神—比較神話学的視点から—」『悠久』144、37-48頁、2016年3月。

[口頭発表]

- ・"Translation Issues in Kojiki: God, Deity or Spirit?", at NINTH ANNUAL INTERNATIONAL CONFERENCE ON COMPARATIVE MYTHOLOGY, The International Association for Comparative Mythology, June 10-12, 2015, Nicolaus Copernicus University, in Poland.
- ・" Myth education from a global perspective", in the panel "Religion and education in the Age of Globalization: The attempt of Education in Religious Culture in Japan", The XXI World Congress of the International Association for the History of Religions (IAHR), August 23 to 29, 2015 in Erfurt, Germany.
- ・(講演)「世界の神話と日向」、神話のふるさと県民大学、於宮崎県立図書館、2015年9月。

[その他]

- ・(解説)「『神々の系譜 日本神話の謎』を読む」松前健『神々の系譜 日本神話の謎』吉川弘文館、251-257 頁、2015 年 2 月。

松本久史 准教授 近世・近代の国学・神道史

担当プロジェクト「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」
[単行本]

- ・神社本庁監修『神社検定公式テキスト 9 神話のおへそ『古語拾遺』編』扶桑社、2015 年 12 月。

遠藤潤 准教授 宗教学・日本宗教史

担当プロジェクト「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」
[論文]

- ・「幕末における国学・仏教と国家—平田国学の仏教批判と仏教からの反批判—」『國學院大學大学院紀要 文学研究科』47、1-21 頁、2016 年 3 月。
- ・「ヨミをめぐる『古事記伝』と『古史伝』—『古事記』解釈における思想編成の力学—」『古事記学』2、79-106 頁、2016 年 3 月。

[口頭発表]

- ・(講演)「神道の死生観—いくつかの論点—」、神社本庁総合研究所主催「中堅神職研修」、於神社本庁、2015 年 4 月。
- ・(講演)「神道思想史 I」、神社本庁総合研究所「第 91 回 明階基礎研修(甲)」、於神社本庁、2015 年 10 月。

[その他]

- ・(記事)「近現代神道史の一齣—宮地直一と特殊神事—(前・後)」『神社新報』2015 年 9 月 7 日付・14 日付。

星野靖二 准教授 宗教学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[口頭発表]

- ・"Considering the 'Religious' and the 'Secular' in Meiji Japan" in the panel "Revisiting 'Secularization' in Japan: A Historical Perspective (1850s-1890s)" organized by Orion Klautau, at the XXI IAHR World Congress, held at Erfurt University, 2015.8.27
- ・"How Religion Relates to "Public Space" in Modern Japan?" in the panel "Public Religion and Public Roles of Religions in Modern Japan" organized by HOSHINO Seiji, at the 74th Annual Conference of the Japanese Association for Religious Studies (JARS), held at Soka University, 2015.9.5 (「宗教の「公」への関わり—近代日本における回路の歴史的検討—」(開催校企画英語パネル「近代日本における公共宗教と宗教の公的役割」パネル(代表者:星野靖二)における発表)、日本宗教学会第 74 回学術大会、於創価大学、2015 年 9 月)

[その他]

- ・(研究ノート)「小崎成章のキリスト教・日本宗教論」『キリスト教史学』69、197-211 頁、2015 年 7 月。
- ・(書評)「末木文美士・林淳・吉永進一・大谷栄一共編著『ブツダの変貌—交錯する近代仏教—』」『宗教と社会』21、97-102 頁、2015 年 6 月。
- ・(書評)「前川理子『近代日本の宗教論と国家—宗教学の思想と国民教育の交錯—』」『近代仏教』23、201-205 頁、2016 年 5 月。

塚田穂高 助教 宗教社会学、近現代日本の宗教運動

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」／「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

【論文】

- ・「メディア報道への宗教情報リテラシー—「専門家」が語ったことを手がかりに—」（平野直子と共著）宗教情報リサーチセンター編・井上順孝責任編集『〈オウム真理教〉を検証する—そのウチとソトの境界線—』春秋社、213-255頁、2015年8月。
- ・「日本の〈新宗教運動＝文化〉研究の課題と展望」『國學院大學研究開発推進機構紀要』8、1-35頁、2016年3月。

【口頭発表】

- ・「趣旨説明とオウム事件後20年の成果」（テーマセッション「ポストオウム研究の課題と展望—地下鉄サリン事件20年の地点から—」）、「宗教と社会」学会第23回学術大会、於東京大学、2015年6月。
- ・「運動の発生と展開の現在—〈新新宗教〉論の再検討を通じて—」（パネル「新宗教論の再検討—後期近代社会における展開を踏まえて—」）、「日本宗教学会第74回学術大会、於創価大学、2015年9月。
- ・「霊術・身体から宗教・国家への跳躍—三井甲之の手ひら治療—」（ワークショップ「身体と政治—近代日本の霊的な心身技法と国家論—」）、「京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」第11回研究会、於京都大学、2015年9月。
- ・「現代日本の「草の根保守」合同運動・日本会議—そのナショナリズム、宗教性の構造と運動手法—」、第88回日本社会学会大会、於早稲田大学、2015年9月。

【その他】

- ・（書評）「三木英著『宗教集団の社会学—その類型と変動の理論—』」『宗教と社会』21、109-113頁、2015年6月。
- ・（報告）「『宗教と社会』全19号の概略」（テーマセッション報告「『宗教と社会』誌からみた「宗教と社会」学会の20年」）『宗教と社会』21、122-125頁、2015年6月。
- ・（資料）「宗教事件年表」（杉内寛幸と共著）宗教情報リサーチセンター編・井上順孝責任編集『〈オウム真理教〉を検証する—そのウチとソトの境界線—』春秋社、330-344頁、2015年8月。
- ・（項目執筆）「大本」「創価教育学会」「谷口雅春」「出口王仁三郎」「戸田城聖」「ひとのみち教団」「牧口常三郎」吉田裕・森武磨・伊香俊哉・高岡裕之編『アジア・太平洋戦争辞典』吉川弘文館、77・357・402-403・436・470・566・620頁、2015年11月。
- ・（紹介）「新書紹介『宗教と政治の転軸点—保守合同と政教一致の宗教社会学—』」『臺灣佛教研究』4-2、3-4頁、2015年12月。
- ・「日本会議と宗教」渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本2016』平凡社、144-149頁、2016年3月。

鈴木聡子 助教（特任） 神道史学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

市川収 客員研究員 惑星物質科学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

加藤久子 客員研究員 政治と宗教

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

【論文】

- ・「ポーランド人にとっての〈アウシュヴィッツ〉—アウシュヴィッツ＝ビルケナウ ナチス・ドイツの強制絶滅収容所」『季刊民族学』153、18-29頁、2015年7月。

[口頭発表]

- ・「社会主義期ポーランドにおけるカトリック教育」、「宗教と社会」学会第23回学術大会、於東京大学、2015年6月。
- ・「他者の歴史を展示すること—ポーランドにおけるホロコースト・サイトの保存、展示—」、仙人の会11月例会、於明星大学、2015年11月。

[その他]

- ・「欧州で標的となるユダヤ人」『ラーク便り』66、66-69頁、2015年5月。
- ・「シャルリ・エブド事件—宗教を対象とした風刺の限界—」『ラーク便り』66、69-71頁、2015年5月。
- ・「欧州における終戦70周年—ドイツ、ロシア、そしてその狭間で—」『ラーク便り』67、61-64頁、2015年8月。
- ・「負の記憶をめぐる旅〈アウシュヴィッツ〉：ポーランド」『山本敏夫記念文学部基金講座「現代社会と宗教」2014-2015年度：戦争と宗教／聖地とツーリズム』慶應義塾大学出版会、38-40頁、2016年1月。
- ・「気になる人物の発言集・2015年の物故者」（村上晶と共著）渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本2016』平凡社、206-217頁、2016年3月。
- ・「フランス同時多発テロ後の欧州社会」『ラーク便り』69、61-65頁、2016年3月。
- ・「家族のあり方についてのシノドス—空転した報道とバチカンの示した一歩—」『ラーク便り』69、66-68頁、2016年3月。

イグナシオ・キロス (QUIROS, Enrique Ignacio Luis) 客員研究員 上代語・上代の認識論

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・Sens et fonctions de la notion de « koto » dans le Japon archaïque. 「上代における〈コト〉という語の概念的意味や役目をめぐって」博士論文、2016年1月（EPHE 高等研究院のサイトに公開する見込みは2016年7月）。

[その他]

- ・(西和訳) マリア・イサベル・アルコネロ・グティエレス「スペインにおけるリーガル翻訳・通訳：司法翻訳・通訳と公認翻訳・通訳」『裁判員裁判時代の法廷通訳人』大阪大学出版会、2016年2月、195-206頁
- ・(和仏訳) — Nanzō-in et la société locale de Sasaguri — 鈴木正崇「仏教寺院の近代化と地域社会—篠栗町南蔵院の場合—」Cahiers d'Extrême-Asie 22 [2013, publié en 2015], Le vivre ensemble à Sasaguri, une commune de Kyūshū, édité par Anne Bouchy, pp.351-421.

カール・フレレ (FREIRE, Carl) 客員研究員 近代の日本史（特に社会史・思想史）

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[その他]

- ・(翻訳) *Encyclopedia of Shinto: Chronological Supplement*, IJCC, 2016年1月。

村上晶 PD研究員 宗教社会学・シャーマニズム研究

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・「現代巫者研究—知識の日常的交渉の観点から—」筑波大学博士論文、2016年3月。

[口頭発表]

- ・「巫者と教団—津軽のカミサマを事例として—」、「宗教と社会」学会第23回学術大会、於東京大学、

2015年6月。

[その他]

- ・「気になる人物の発言集・2015年の物故者」(加藤久子と共著) 渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本 2016』平凡社、206-217頁、2016年3月。

齋藤公太 研究補助員 宗教学、日本思想史

担当プロジェクト『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—

[論文]

- ・「大山為起と荷田春満の『古事記』注釈」『國學院大學研究開発推進機構紀要』8、75-98頁、2016年3月。
- ・「前期水戸学における神器論争」『年報日本思想史』15、1-15頁、2016年3月。

[口頭発表]

- ・「前期水戸学における神器論争」、日本宗教学会第74回学術大会、於創価大学、2015年9月。
- ・「大山為起と荷田春満の『古事記』注釈」、神道宗教学会平成27年度第3回研究例会、於國學院大學、2015年10月。
- ・「今泉定助の『神皇正統記』解釈」、神道宗教学会第69回学術大会、於國學院大學、2015年12月。

[その他]

- ・(研究ノート)「安全保障関連法案と宗教—政治と宗教のことはめぐって—」(天田顕徳と共著)『ラク便り』68、61-72頁、2015年11月。
- ・(翻訳)ジェリー・プロットン『地図の世界史大図鑑』(石垣憲一・石井克弥・荻野哲也・黒田眞知・中川泉と共訳)河出書房新社、2015年11月。
- ・(書評)「宗教がわかる Book ガイド (2015年刊)」(相澤秀生・今井信治・藤井修平・光成歩と共著) 渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本 2016』平凡社、232-239頁、2016年3月。

芹口真結子 研究補助員 日本近世史・近世宗教史

担当プロジェクト『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—

[論文]

- ・「明治五年東本願寺の九州巡回説教—教導職制度揺籃期の教化活動—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』8、99-133頁、2016年3月。

[口頭発表]

- ・「明治初期における東本願寺の教化活動—明治5年大谷勝尊一行の九州巡回説教を事例に—」、国学研究会、於國學院大學、2015年9月。
- ・「近世後期における教学論争の展開と民衆教化—文政期加賀安心争論を中心に—」、近世史研究会、於東京大学、2016年1月。

天田顕徳 共同研究員 宗教社会学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[口頭発表]

- ・「文化遺産としての修験道考—世界遺産登録と吉野の10年—」、日本宗教学会第74回学術大会、於創価大学、2015年9月。

[その他]

- ・(研究ノート)「安全保障関連法案と宗教—政治と宗教のことはめぐって—」『ラク便り』68、61-72頁、2015年12月。
- ・(用語解説)「話題の用語解説・新語解説」(小林宏至との共著) 渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本 2016』平凡社、246-251頁、2016年3月。

李和珍 共同研究員 宗教社会学、日韓の新宗教教団の比較研究

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

ヤニス・ガイタニデイス (GAITANIDIS, Ioannis) 共同研究員 医療人類学・宗教社会学・日本学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[論文]

- ・ガイタニデイス ヤニス・小林聡子・西住奏子・和田健・吉野文「[日本]を題材とした協働学習の仕掛け—教養教育における実践から考える—」『国際教育(International Education)』9、千葉大学国際教育センター、1-73頁、2016年3月。

[口頭発表]

- ・“De-Racializing Japaneseness: A Collaborative Approach to Shifting Interpretation and Representation of “Culture” at a University in Japan”(on skype) with Satoko Shao-Kobayashi (on site), in Higher Education SIG Highlighted Session: Race, Equity and Higher education: The Global Relevance of Critical and Inclusive Pedagogies, Comparative and International Education Society 2016 Conference, Vancouver, 10 March 2016.
- ・“Translation and Interpretation of Western Occultism in Contemporary Japan,” in Panel: Japanese Religions under Globalization (panel chair: Ugo Dessi), 27 August 2015, XXI IAHR World Congress, University of Erfurt.
- ・“The Vicious and Virtuous Aspects of Japanese Studies in Japan: Towards a Critical Japanese Studies Perspective,” in Panel: Japanese Studies in the Era of Cool-Japanization of Japanese Higher Education, Anthropology of Japan in Japan Spring Workshop, 26 April 2015, Seijo University.
- ・(講義)「グローバル社会におけるリベラルアーツ教育への提案—言語的・文化的多様性を持った学生間における協働学習のためのアプローチ—」(小林聡子と協働実施)、異文化間教育学会第36回大会プレセミナ、於千葉大学、2015年6月。

イヴ・カドー (CADOT, Yves) 共同研究員 日本文化と武道

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

野口生也 共同研究員 宗教人類学、ペンテコスタリズム研究

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

ジャン＝ミシェル・ビュテル (BUTEL, Jean-Michel) 共同研究員 日本民俗学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

牧野元紀 共同研究員 東洋学・ベトナム キリスト教社会史

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

[研究紹介]

今日のベトナムで全人口の一割程度を占めるキリスト教(カトリック)が、現地社会においていかなる位置を占めているのか。歴史的な文脈から考察する。ベトナムは19世紀後半にフランスの相次ぐ軍事侵攻の結果、植民地化されるが、そのきっかけとなったのが現地政権、グエン王朝によるキリスト教の弾圧であった。フランス政府はグエン朝に弾圧をやめさせ、信教・布教の自由を認めさせることを第一に掲げた。ではなぜ、ベトナムにおいてキリスト教は受容されていたのか、また今日もなぜ一定数の信者を得て社会に根を張っているのか。日本や中国との比較を念頭に、文献資料の解析、フィールドワークなどを通じて

解明に努めている。

[単行本]

- ・『東インド会社とアジアの海賊』（共著）、勉誠出版、2015年5月。

[2014年度までの主な研究業績]

- ・ Local Administrators and the Nguyen Dynasty's Suppression of Christianity during the Reign of Minh Mang 1820-1841, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, 71, 2013.
- ・ The Vietnamese Written Languages and European Missionaries: From the Society of Jesus to the Société des Missions Etrangères de Paris, *Beyond Borders; A Global Perspective of Jesuit Mission History*, Eds. Shinzo Kawamura and Cyril Veliath, Sophia University Press. 2009.
- ・ 「パリ外国宣教会のベトナム宣教とカテキスター—18世紀末から19世紀前半におけるトンキンのキリスト教社会—」『東南アジア 歴史と文化』35、山川出版社、3-21頁、2006年5月。

一戸 渉 共同研究員 日本近世文学

担当プロジェクト「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

小田 真裕 共同研究員 日本近世史

担当プロジェクト「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W) 客員教授 日本思想史

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

土屋 博 客員教授 宗教学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

山中 弘 客員教授 宗教社会学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

林 淳 客員教授 日本宗教史

担当プロジェクト「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—」